今月の
ブックトーク

9月(長月)「国際翻訳デー」

前田 由紀
／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

国連のHPによると、2017年国連は「国々をつなぎ、平和・理解・発展を促進する言語専門家の役割」に敬意を表してInternational Translation Day「国際翻訳デー」を聖書ラテン語翻訳者聖ヒエロニムスの命日に因んで9月30日に制定しました。日本でも日本語で世界の古今東西の書物を読むことができる環境にあることは、翻訳者の地道な功績に負うところが大きく、本当に有難いことです。

ところで、翻訳で一番難しいことは、言語の背景となる文化の違いを読者にどのように理解してもらうかで、表現しがたい言葉も多々あることも確かです。『**翻訳できない世界のことば**』では、英語が母語の著者がユニークと思われる言葉を世界中から集めて著者の素敵なイラストとともに解説しています。日本語の言葉も４つ出てくるのでどんな言葉が外国の人にはユニークなのか確かめてみてください。私は、ヒンディー語のJUGAAD（ジュガール）とスペイン語のVACILANDO（ヴァシランド）が好きです。



エラ・フランシス・サンダース・著
前田 まゆみ・訳
創元社

翻訳のおかげで、日本の文学作品も最近とても世界で人気を博すようになってきています。その潮流のきっかけとなった作品と言われているのが『**コンビニ人間**』です。2016年に日本で出版されましたが、今年4月現在で出版社文藝春秋によると46の国と地域で出版され、世界累計300万部超となっています。コンビニでアルバイトをしている30代の女性が、周りの定型的な価値観を冷静に観察し、「普通の人間」とは何かを問いかけます。



村田 沙耶香・著
文藝春秋

では次に、直接翻訳者のお話を『**日本文学の翻訳者たち**』で聞くことにしましょう。最初は、英語で『コンビニ人間』を訳した竹森ジニーさんから始まります。大きな課題は、日本独特のコンビニのイメージをどう伝えるかでした。マニュアル化された挨拶の「いらっしゃいませ」をどう訳すかに悩み、結局「Irasshaimasé」とそのまま訳したことや既婚と独身を区別するために呼び名をMrs.とMissに使い分けたそうです。また日本の他の作品の仏語、韓国語、台湾華語、タイ語、オランダ語、ドイツ語の訳者たちの多彩な翻訳裏話が満載で贅沢な内容となっています。彼らの功績は、日本の文学界にとってはかり知れません。



金原 瑞人・編著
平凡社

最後に、翻訳を体験してみましょう。『**いっしょに翻訳してみない？**』です。実際に８名の中学２年生の生徒を対象におこなった６回の翻訳者の特別授業の内容がまとめられています。オー・ヘンリーの短編『二十年後』をテキストに翻訳の面白さに気づかされます。英語力のみならず、実は日本語力が試されるのが翻訳です。ＡＩ翻訳との比較も出てきますが、いかに繊細に文章にあたり前後の文脈を考えて自然な日本語にするかが腕の見せ所です。



越前 敏弥・著
河出書房新社

翻訳は、「異なった文化のあいだの橋渡しをすること」なのですね。

最後のページのクイズの答え：**Q1** ② コリオリの力　**Q2** ① お札を印刷する紙代が足りなくなった　**Q3** ③ 不老不死の薬（日本に伝わった際、「望月＝満月」の音が「餅つき」に変化したそう。）　**Q4** ① ナスを食べすぎると体が冷えてしまうから（ナスは体を冷やすと言われていた）

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。